



ヘドウィグ
キャンディ
ポップ



詩集 I

Hedwig Candy Pop

砂

ゆっくりと流れる時間の中で
見えては消え 見えては消え
捕まえられるはずだったこの瞬間が
手から零れ落ちていく
まるで手に取った砂丘の砂のようで
そして掴んだと思えた
人生のようで

闇と勇気

今日見た夕暮れの中に潜む
小さな勇気を
大きな力に変える魔法がひとつ
君に目掛けて矢を放つ
眼前にそびえ立つ
城壁を壊すのは
貴女の心の闇の中
生け贄を求めよ

見えない世界

静寂を壊す

自転車のベルの音

悪魔に魂を捧げた者の

悲しき音色

これより進む道の先に

待ち受ける悪魔が叫ぶ

残虐な血を流せ

雄たけびとともに

無垢

僕の背中から翼が生え
高く 高く 舞い上がる

上から見える人波は
飴に群がる蟻の群れ

踏み潰し 踏み潰し

残った址に蒔く
希望の種

咲き乱れる花園に
想う者なし

子

僕らは宇宙の子
君は卵を産み僕がそれを食す
君の瞳が雨に濡れれば
僕のお腹に子が宿る
いまこそ聖なる泉のもと
集まりし民衆の中
ふたりでトマトを食べる

懺界

崩れ落ちる闇への扉

疼く快樂の傷痕

見えなきものを見る友の目は

今も水の中を彷徨う

路

彼の腕に残る火傷の痕
闇の商人時代の残り香
心の壁を壊す奇跡を起こせ
機械へと変化した体と
腐敗する自分への歎び
頭の中で地球が廻る

宝箱

誰も傷つけないし、傷つけられたくもない。

ひとにやさしくする為にはいろいろな物を箱につめて鍵をかけた
どこか心の隅にそっと忍ばせておくようなものかな

半月の照らす未来

緩やかな弧を描く
天空に昇る半月よ
その光が照らす先に
見える青春の影
未来へと向かう
階段を登りし先は
妖怪の棲家へと続く
青春の門

触手

温かい手がわたしを包む

その手に触れたくて

わたしは闇に沈むのだ